

たのである。

本書は要するに各經各論各部各論師の思想をそれら、殆ど獨立に心理的觀察を興へて解剖紹介せられたものであつて、寧ろ印度佛教思想に關係ある史料個々の解題として見るべく、各思想史料それ自らの内容如何を窺はんとするものにとりては參考になると思ふが、併し組織されたる思想史としての豫期の效果は本書に於て之を認むるに躊躇せざるを得ないと思ふ、兎に角本書を讀んで、先づ感ずる所を忌憚なく言ふ事が許さるゝならば各史料に對する公正なる客觀的考察の不足と、出版の不用意と、大膽にして曖昧なる臆斷とがその缺點であらう。といふ事である。東京大同館發行、定價參圓參拾錢、(本田義英)

民本主義と國民教育

橋本文 著

デモクラシーと言ふ言葉は近頃、廣く一般に用ゐられて居る流行語である事は言ふまでもない。デモクラシーと言へば夫れ丈でもう何だか意味がわかつた様な氣持がする程、耳に慣れてゐる。而し果してどう言ふ思想を表はしのかと聞かれ、ば一寸困る人が多からう。又この言葉が多くの人々の間にもてはやさるゝ其の反面には、我國傳來の思想と非常にかげ離れた否全く正反對な思想であるかの様に思はれて、従つてデモクラシーと言へば一種危險思想の様に見做す傾向が一方に存する事も争はれない様である。

民主とか民本とか言へば君主とか君本とかと矛盾する様に感ぜらるゝのが事實とすれば、先づデモクラシーの意義を明かにして、我が國體との關係を判明に説く事が、徒らにこの言葉に隨喜した

り、又は徒らに危險視する事よりも、望ましいことであると思はれる。本書はそう言ふ意味から見て、正に生るべくして生れたものである。且つ著者が現に國民教育の實際に携はつて居ると言ふ事から、著者其の人も亦得たりと言へよう。

(一) 民本主義とは何ぞや、(二) 民主主義に對して、(三) 民本主義と政治、(四) 民本主義と倫理、(五) 民本主義と教育、(六) 君民一本主義、(七) 君民一本主義と家族制度、(八) 君民一本主義と學校教育、(九) 君民一本主義と社會問題、等に大別して前、後約二百頁に渡つて縷々説いて居る所は、結局リ・カンがデモクラシーを定義して、人民の爲めに、人民に據る人民の政治 *the Government of the people by the people for the people* と言つたのを、我國に於ては、人民の爲めに、人民に據る大君の政治 *(the Government of the Empire by the people the people)* と改正すべき所以と、我が國民道德の理想として君民一本主義を唱道すべき理由の闡明であり、是れが眞にデモクラシーを我が國民化した主義であり、この理法を國民に徹底せしむる事が國民教育上重大な意義を有すると言ふ事を、力説して居る。叙述簡にして要を得、頗る眞面目な著述である。(寶文館發行、定價壹圓貳拾錢、深田武)

心理叢書 第十一冊 ウィリアム・ジェームズ及び其思想

文學士 小憲虎之助著

學に志す者が獨創の見解を色々の問題について發表し得ると言ふ事は斷かに痛快な事であり且つ望ましい事であるが餘り性急に